

本科 1 期 7 月度

解答

Z 会東大進学教室

高 2 選抜東大英語

高 2 東大英語



11章 助動詞構文2

問題

【1】

A.

全訳

人間は、先祖が言語を発明して以来、伝統に支配されることに甘んじてきた。(1)これが
進歩の大きな原因であったのと同時に大きな障害でもあったのである。まずそれを進歩の原因として考えてみよう。(2)それぞれの世代が独力で読み書き、算術を発明しなければならないとしたら、いったい我々はどうなっているだろうか。美術と工芸とが伝承されないとしたら、我々はどうしてうまくやっていけるであろうか。もっとも進歩した時代においても、我々の活動の大部分は伝統に基づいているものであり、またそうでなければならないのである。我々は両親の度量の狭さに反感を持つかもしれないが、両親の肩を踏み台にしてしか両親を超えることはできないのである。

B.

全訳

私が中学生だった頃、先生がトマス・マコーレーの次のような一節を読んでくれた。「読書を愛さない王様になるよりは、むしろたくさんの本がある屋根裏部屋に住む貧しい人になりたい。」私はその一節をそれ以来ずっと覚えていて、おそらくこれが、私が今でも神田の古本屋で本を拾い読みして多くの時間を過ごす理由である。私がジョン・ラボック卿著の『人生の使用目的』という本を見たのはそんな古本屋のある店の中であった。「読書について」というタイトルの章の中に、驚いたことに、上の引用文で終わっているすばらしい一節を発見した。

C.

全訳

今日働いている人のほとんどは、何らかの種類の機械を扱わなければならないが、このことは、我々は普段、労働時間や行動のリズムや、ことによると思考過程をも機械の要求に合わせなければならないということを意味している。長期的に見れば、我々はコンピュータが処理できない考えを押し進めたり、またそのような問題を提起したりすることをあきらめるようになるかもしれないし、もしこうなると我々の知的生活が狭められることになるかもしれない。

D.

全訳

ここでしばらく脇道にそれて、あの日本独特の現象である茶道について述べておくのも有益であろうと思う。日本の陶器及び日本の陶器への朝鮮からの影響についてどんな論考を行う場合でも、茶道の重要性についていくら過大評価してもし過ぎることはない。茶は8世紀の昔、初めて中国から日本に紹介されたが、薬効のある飲料と見なされていた。そして医薬

品としての使用も貴族や寺院に限られていたようである。

【2】

解答

- (1) c (2) c (3) campaign (4) all / was (5) like to work
(6) a (7) b (8) without (9) prosperity
(10) ア minding イ enjoying ウ had been エ settled オ led

解説

(1)

- weighing down one end of his seat は付帯状況を表す分詞構文。
- weigh down ～ 「～を押し下げる」
- end *n.* 「端」

(2) 下線部の前後の文脈から判断する。

- He was active in politics 「政治に対して積極的であった」
- never ran for an office himself 「決して自分では…しなかった」
- but often took up ～ and conducted his campaign for him

「だけど友人の主義を支持して彼のために選挙運動を指揮した」→答えは c になる。

また, run for ～ 「～に立候補する」 office 「公職」という知識があれば, 答えは容易にわかるだろう。

(4)

- S have only to *do* [only have to *do*] 「…しさえすればよい」→ all S have to *do* is (to) do 「S がしなければならないすべては… (すること) である」
- 時制を was とすることに注意する。

(5)

省略語句を探すときは原則としてその前を見る。本文では who liked to work がある。he didn't *like to work* と補って考えた時に意味は通じるか? → 意味が通じるので, この答えは like to work となる。

(6)

- of that he made no secret < he made no secret of that → make a secret of ～ 「～を秘密にする」の of ～ が前に出た形。
- that = he didn't like to work

(7)

下線部の前の部分の内容から考える。

ℓ. 12 He preferred his cart to an automobile because it was light, *went easily over heavy or rough roads*

ℓ. 13 Besides he could have a better view of the country he loved when he didn't have to *keep his mind on the road*

→ because it was ～ と ℓ. 13 の文は彼 (= ブラウン) が車よりも荷馬車を好んだ理由が述べられている。

→ 荷馬車は *went easily over heavy or rough roads* だから he didn't have to keep his

mind on the road なのである。

また, keep one's mind on ~ 「～に集中する; ～に専念する」 するという知識があれば, 答えは容易にわかるだろう。

(8)

空所の後の had watched the farms emerge one by one from the great rolling page where once only the wind wrote its story の部分が, 彼がこの土地へやってきた頃の周囲の状態を描写した部分であることを読み取る。

→「人がほとんどいない状態」だということが分かる→「一人の人にも出会うことなく」という意味になるようにする。

(9)

○ prosper *vi.* 「繁栄する」 *cf.* prosperity *n.* prosperous *adj.*

(10)

「ナット・ブラウンは国のこの土地に初めにやって来た人間のうちの1人だった。今や彼は大地主で, 自分のことよりも人の世話ばかりしてられるほど金持ちになった。彼が最も好きなことの1つは, 荷馬車に乗って郊外を走り回り, 年月と共に持たされたその土地の変化を楽しむことだった。かつては荒涼とした未開の地だったが, 今や人が移り住み繁栄した。その風景を見ると, 彼は時折, すべての発展が自分の成し遂げたことであるかのように思うことがあった。」

○ ~ enough to ... 「…するほど十分に～」

○ bring about ~ 「～を引き起こす」

○ bleak *adj.* 「荒涼とした」

○ untamed *adj.* 「未開の」

○ thriving *adj.* 「繁栄した」

ア 次の部分を参考にする。

① *ℓ.* 6 often took up the cause of a friend and conducted his campaign for him

② *ℓ.* 7 His own affairs were of secondary importance to him

→「他人の事を世話するのにふける」とする

○ indulge oneself in ...ing 「…することにふける」

○ mind ~'s business 「～の世話を焼く」

○「～を気にする」の care は通例疑問・否定文で用いるのでここでは不適。

イ 次の部分を参考にする。

ℓ. 20 As he drove along, he would feast his eyes with ~

→ enjoy を選ぶ。付帯状況を表す分詞構文にして主節につなげる。

ウ 次の部分を参考にする。

ℓ. 15 He had come to ~ the wind wrote its story

→その土地のかつての状態を述べている部分。過去の一時点までの継続を表すので, be 動詞を過去完了形にすることに注意。

エ 次の部分を参考にする。

ℓ. 17 He had encouraged new settlers ~ grow and prosper

- この部分から現在のその土地の状態を考える
- 「だが（その土地も）今や人々が移り住み繁栄した」
- 受け身形になっているので過去分詞にする

オ 次の部分を参考にする。

ℓ. 19 until he felt ~ his own enterprise

→ lead O to do 「Oに～させる」〔→ 過去形にする〕《無生物主語構文》

全訳

人々は1マイル先でもナット・ブラウンと彼の荷馬車が分かった。彼は、荷馬車を制御する手を膝の上に置き、自分の重みで座席の片方を沈ませながら、どっしりと快適そうに座るのだった。どんな理由があろうとも15分休むのも嫌がるドイツ人の隣人でさえ、彼が来るのを見ると喜んだ。その郡のあちらこちらに点在する小さな町々の商人たちは、彼が週に一度かそこら立ち寄らないと彼を待ち遠しく思うのであった。彼は政治に対して積極的だった。自分では決して公職に立候補しなかったが、しばしば友人の主義を支持し、彼のための選挙運動を指揮した。自分のことは二の次だった。昔彼はこの土地に移り住み、広大な土地を購入した。その土地のおかげで彼は金持ちになった。今や彼は働くのが好きな農民にその土地を賃貸するだけでよかった。彼は働くのが好きではなかった。そしてそのことを人にも隠し立てしなかった。1年のうちでブラウンがどこかへ荷馬車を走らせない日はほとんどなかった。町や政治的な会議や集会などに出かけたり、もし他に世話をすることがなければ、近所の人たちの仕事の様子を見に行ったりした。彼は車よりも荷馬車を好んだ。というのも、荷馬車は軽く、ぬかるんだりでこぼこした道もすいすいと通り抜けたからである。その上道に専念しなくてもいい時は、彼の愛する田園地帯を車から眺めるよりもっと良く眺めることができた。どの方向へ向かって人も人っ子1人出会うことなく何マイルも歩くことのできた時代に、彼はこの地方へやって来て、かつては風だけがその歴史を記した緩やかに起伏する土地に、農場が1つそしてまた1つと現れるのを見てきた。新しく移り住んだ人々に家屋敷を持つよう励まし、若者に結婚資金を貸してやり、家族が大きくなり繁栄するのを見てきた。そして今では、まるでそれが全て自分のしたことのように少し感じるのであった。荷馬車を走らせる道すがら、年月による変化のみならず、季節による変化も眺めて、彼は楽しむのであった。

注

- ℓ. 1 ◇ He sat massive and comfortable
 - sit ~ 「～の状態で座っている」
 - この場合、副詞を伴って sit massively and comfortably とは言わない。
 - massive *adj.* 「大きな塊の；大きく見える；がっしりした」
- ℓ. 3 ◇ a quarter of an hour → 1時間の4分の1 → 15分
 - ◇ on any account 「どんな理由でも」
 - account *n.* 「①勘定書 ②預金講座 ③報告 ④考慮 ⑤理由 ⑥重要性」
- ℓ. 4 ◇ see ~ …ing 「～が…しているのが見える」
- ℓ. 5 ◇ drop in 「立ち寄る」
 - ◇ politics *n.* 「政治；政治学；政治活動；政治問題」

- ℓ. 6 ◇ take up
 ○ここでは「主義などを後援する；支持する」の意で用いられている。ℓ. 18では「土地などを所有する」の意で用いられている。
 ◇ cause：ここでは「個人や社会の掲げる主義」の意。
 ◇ conduct *vt.* 「導く；行う；指揮する」
 ○ conduct oneself 「行動する」
 ◇ campaign *n.* 「(政治的・社会的) 運動；遊説；軍事行動」
- ℓ. 7 ◇ affair *n.* 「事務；浮気；関心事；事件；出来事」
 ◇ of secondary importance 「2次的な；あまり重要でない」
 ○ of + 抽象名詞 = 形容詞 [= secondarily important]
- ℓ. 8 ◇ tract *n.* 「(陸, 海などの) 広がり；広い面積；土地」
 ◇ which 以下は a vast tract of land に補足的説明を加える非制限用法の関係代名詞節。
 ◇ make ~ C 「~をCにする」
- ℓ. 9 ◇ rent ~ out 「~を賃貸する」
- ℓ. 10 ◇ There were few days in the year when Brown did not drive off somewhere 「1年のうち、ほとんど毎日ブラウンはどこかへ荷馬車を走らせた」〔二重否定の文〕
 ○ drive off 「車で出かける」
 ◇ to a town, or a political convention, or some meeting or other; → somewhere の具体的な内容を列挙して示した部分
 ○ convention *n.* 「集会；(社会・伝統的) しきたり；協定」
 ○ some ~ or other 「何らかの~」
- ℓ. 11 ◇ to see how his neighbours were getting on with their work
 ○ 目的を表す副詞用法の不定詞
 ○ get on with ~ 「~がうまくいく；~が進行する」
 cf. How are you getting on with your work? (仕事のはかどりが具合はいかがですか。)
- ℓ. 13 ◇ heavy：ここでは「道のぬかるんだ」の意。
 ◇ rough *adj.* 「でこぼこした」
- ℓ. 15 ◇ He had come to this part ~, (and he) had watched the farms ...
 ○ He に2つのVが続くことに注意する。
- ℓ. 16 ◇ living soul 「生きた人間」
 ◇ had watched the farms emerge one by one from ~
 ○ watch ~ *do* 「~が...するのを見る」
 ○ emerge *vi.* 「出現する」
 ○ one by one 「1つずつ」
- ℓ. 17 ◇ the great rolling page where once only the wind wrote its story 「かつては風だけがその話を綴った起伏のある広大なページ」《直訳》
 →土地を歴史のページになぞらえた比喩的な記述。
 ○ rolling *adj.* 「ゆるやかに起伏する」
 ○ once 「かつて；一度」

- ◇ He had encouraged ～, lent ～, seen ～ [文の構造に注意]
- encourage ～ to *do*…「～が…するよう励ます」 ⇔ discourage
- lent < lend → lend ～ …「～に…を貸す」
- seen < see ～ *do*「～が…するのを見る」

ℓ. 19 ◇ ～; until …「～してついに…」

- ◇ he felt a little as if all this were his own enterprise
- as if …「まるで…かのように」(…の部分は仮定法過去)
- enterprise *n.*「事業; 進取の気性; 企業」

ℓ. 20 ◇ As he drove along「荷馬車を走らせながら」

- as「…する時に; …しながら」／「時」を表す接続詞
- along *adv.*「先へ; 前へ; どんどん」

◇ he would feast his eyes with ～「彼は～によって自分の目をたのしませたものだった」

- 過去の習慣を表す would「…したものだった」
- feast *vt.*「もてなす; 大いに楽しませる」

◇ not only ～, but (also) …「～だけでなく…も」

◇ those (which) the years had made / those (which) the seasons made

- those は the changes を指す。

【3】

解答

I. Since ancient times, people's attitudes toward cats have ranged from worship to hatred and fear.

- Cats may have been the first domesticated animals.
- Cats probably were first allowed to share the warm caves of humans because they kept away rats and mice.

II. Ancient Egyptians worshipped a cat goddess named Bast.

- Many temples and even a city were named after Bast.
- Bast was sometimes shown with the head of a lion, but usually with the head of a cat.
- The Egyptians often wore jewelry or charms bearing the image of cats.

III. Egyptians preserved the bodies of their cats when they died and buried them ceremoniously.

- In the late 19th century a cat cemetery was discovered near the city of the cat goddess Bast.
- Hundreds of thousands of mummified cat bodies were found.
- Many cat mummies were sold or destroyed, but thousands still remain.

IV. Some people believed that a dead person's soul could enter a cat's body.

- The ancient Jews believed that when a very religious person died, his soul lived within the body of a cat before going to heaven.
- In Siam and Burma, sacred cats were kept in special rooms in temples.
- Members of the Siamese royal family were buried together with their favorite cat.
- When the cat escaped, it was brought back to the temple and treated with great care.

V. In medieval Europe cats were associated with witchcraft and the devil.

- Witches and sorcerers were believed to get magical power through Satan.
- It was believed that people who practiced black magic were accompanied by demons in the form of animals.
- This superstition led to the killing of many cats in Europe during the Middle Ages.
- The low number of cats allowed the rat population to increase.
- Rats carried the terrible Black Death plague through Europe during the 14th and 15th centuries.

Script |

 **CD 6**

Cats & the Supernatural

Cats may have been the first animals that people domesticated. The earliest historical records mention cats as domestic animals. Exactly when, where, and how cats were fully domesticated is still not certain, but it occurred at least six thousand years ago, and possibly much earlier. Wild cats were likely first allowed to share the warm caves of humans
5 because they kept away rats and mice. But the role of cats in human life has not always been one of service. People's attitudes toward them have ranged from worship to hatred and fear.

In the religion of ancient Egypt there was a cat goddess named Bast. Many temples and even a city were named after her. Bast was sometimes shown with the head of a lion,
10 but usually with the head of a cat. The Egyptians thought that living cats had the power to protect them from both natural disasters and supernatural harm, and they often wore jewelry or charms bearing the images of cats.

People at that time preserved the bodies of their cats when they died and buried them

ceremoniously. In the late 19th century a cat cemetery was discovered near Bubastis, the
15 city of the cat goddess Bast. Hundreds of thousands of mummified cat bodies were found
there, neatly arranged on shelves. Many were stolen and sold as souvenirs to tourists.
Others were destroyed by careless handling, but thousands still remain.

The ancient Jews believed that when a very religious person died, his soul passed into
the body of a cat and lived there for the rest of the cat's life. Then the person's soul could
20 go to heaven. A similar belief existed in Burma and Siam until modern times. Sacred cats
were kept in special rooms in temples. When members of the Siamese royal family died,
they were buried together with their favorite cat. A hole was left from which the cat could
escape, however. When the cat escaped, the priests knew that the royal family member's
soul had entered the cat, so it was brought back to the temple and treated with great care.

25 In medieval Europe cats were also associated with supernatural power, but in a darker
way. Many Christians had come to connect folk traditions of magic with the devil. Witches
and sorcerers were believed to have gotten their magical power by becoming servants of
Satan. It was believed that people who practiced black magic were accompanied by
"familiars," that is, demons in the form of animals such as cats, dogs, and birds—especially
30 black ones. This superstition led to the killing of many cats in Europe during the Middle
Ages. The result was bad for people as well as cats. The low number of cats allowed an
increase in the number of rats, which carried the terrible Black Death plague through
Europe during the 14th and 15th centuries. [475 words]

全訳

猫と超自然的なもの

猫は人間が飼いならした最初の動物だったかもしれない。最も初期の歴史の記録では、猫
をペットとして述べている。正確にいつ、どこで、そしてどのように猫が完全に飼いならさ
れたかまだ定かではないが、それは少なくとも6千年前あるいはもっと以前に起こった。猫
はネズミたちを寄せつけないという理由によって、おそらく最初は人間たちの暖かい洞窟に
いっしょにいることを許されたのだろう。しかし、人間の生活における猫の役割は、必ずし
も役立つということだけではなかった。人々の猫に対する態度は、崇拝から憎しみや恐れま
で、さまざまであった。

古代エジプトの宗教では、バストという名の猫の女神がいた。多くの寺院は、また都市でさえ、彼女にちなんで名づけられた。バストはときにライオンの頭をもって表されるが、通常は猫の頭をもって表されている。エジプト人は、生きた猫は、自然災害と超自然的な害の両方から彼らを守ってくれる力を持っていると考えていた。そして彼らはよく、猫の像のついた装身具やお守りを身に着けた。

当時の人々は、猫が死んだときにはその死体を保存し、おごそかに埋葬した。19世紀の終わり頃、猫の女神バストの町であるプバステイスの近くで、猫の墓地が発見された。そこでは何十万体ものミイラ化された猫の死体が見つかり、棚にきちんと並べられていた。多くは盗まれ、観光客へのみやげ物として売られた。その他のものは不注意な取り扱いによって壊されてしまったが、まだ何千体かは残っている。

古代ユダヤ人は、非常に信仰深い人が亡くなった場合、その魂は猫の体に移り、猫が生きている間、そこで生きると信じていた。そのあと、その人の魂は天国へ行けるのであった。ビルマやタイにも、近代まで、似たような信仰が存在した。聖なる猫が、寺院の特別な部屋で飼われていた。タイの王族が亡くなると、彼らは自分のお気に入りの猫と共に埋葬された。だが、猫がそこから逃げ出せるような穴もあけてあった。猫が逃げ出したときに、僧侶たちは、その王族の魂が猫に入り込んだとわかり、その猫は寺院に連れ戻され、大切に面倒を見られたのである。

中世ヨーロッパでも、猫は超自然的な力と関連づけられていたが、もっと暗い面においてであった。多くのキリスト教徒は、民間の魔術伝承を悪魔と結びつけるようになった。魔女や魔法使いは、サタンの召使になることで、魔術的な力を得たのだと信じられていた。黒魔術を実践する者は「使い魔」、つまり、猫や犬や鳥といった動物——特に黒いもの——の形をとった悪魔を伴っているとも信じられていた。この迷信により、中世において、ヨーロッパでは多数の猫が殺されることになった。それは猫にばかりでなく、人間にも悪い結果をもたらした。猫の数が少なくなったためにネズミの数が増え、それによって、14世紀から15世紀のあいだ、ヨーロッパ中に恐ろしい黒死病が広がったのである。

【4】

ポイント

助動詞に関する入試レベルの標準的な問題を解いてみよう。

解答・解説

(1) d

「トンプソン教授はいつも時間に正確だ。だからすぐにここに来るはずだ。」

○ should は‘当然の推量’で「～するはずだ」の意味。

○ punctual 「時間に正確な」

(2) b

「神が我らによりよい人生を示さんことを。」

○ May S V! の形は‘祈願文’と呼ばれ、「SがVしますように」という意味になる。

(3) d

「まだ朝6時にすぎない。リアはこの時間は寝ているかもしれない。」

- asleep は形容詞であるから a はおかしい。might have been は‘過去の推量’を表すため、ここでは不適。may well …は「…するかもしれない、…するのも当然だ」、might as well …は「…した方がよい」という意味であるが、動詞を伴うため c の sleeping ではおかしい。

(4) b

「ネイザンと彼の家族は街を出ているに違いない。私達が何度か電話をしたが、応答がない。」

- 何度か電話をしたのに出なかったのだから、街を出たに「違いない」となる。must は‘確信度の高い推量’で「～に違いない」という意味を表す。なお、もし選択肢に should have gone があれば「出かけてしまったはずだ」という意味になるため、正解となる。

(5) a

「生徒がメディアを批判的に眺められるようになることは重要だ。」

- ‘必要性・重要性’の形容詞の後の that 節内はしばしば仮定法現在になるが、主にイギリス英語では should を伴う。この should は訳出しない。

【5】

ポイント

入試英作文に頻出される構文を演習しながら英文ごと覚えてしまおう。

解答・解説

- (1) You have only to look around to see how important peace is.

別解 You have only to look around to find the importance of peace.

- 「to see するためには look around しさえすればよい」と考える。
- have only to do 「…しさえすればよい」

cf. All you have to do is (to) study. = You have only to study.

- (2) You cannot say too often that honesty is the best policy.

- cannot ~ too … 「どんなに～しても…しすぎることはない」

- (3) I would rather [sooner] die than work for a company like that.

別解 I would as soon die as work for a company like that.

- would rather [sooner] A than B = would as soon A as B = might as well A as B 「B するくらいなら A した方がよい」

- (4) When I first began studying abroad, I had no friends, so I would often turn to the wall and cry.

- would は‘過去の習慣’を表す。この用法ではしばしば時の副詞 (often, usually, sometimes など) とともに使われる。

- (5) Why should we be satisfied with less than a half when we could have it all?

- should は‘主観的感情’を表して「いったい～」という意味。could は仮定法と考えることができ、 「もしかしたら」という仮定を含む。when は逆接の接続詞のように用いられることがあり、when S V 「SがVなのに」と訳すことができる。

【6】

ポイント

実際の会話文で、助動詞がどのように使われているかを確認していこう。

解答・解説

- (1) **h** Could you ~? (～していただけますか。) という丁寧な表現となる。
- (2) **l** know *one's* way around (地理に明るい) という熟語を問う問題。
- (3) **a** You're telling me. (おっしゃる通りです。) は決まり文句。
- (4) **f** 明日のことに言及しているから未来の *will* を入れる。
- (5) **m** 「明日会えるけれども」と逆接になる。
- (6) **i** 「C棟が学部の建物だからそこが研究室に違いない」となる。
- (7) **j** 「メールで送ることができないのはどうしてか」となる。
- (8) **c** 「PCを持ってすらいない」となる。**j** も入りそうだが, *not just* = *not only* となつて「コンピュータを持っているだけではない」という意味になってしまう。
- (9) **n** *be meant to do* は「…しなければならない, …することになっている」の意味。
had better は命令口調であり目上の人には用いない。
- (10) **g** *had better* …は「…した方がよい」。*get a move on* は「事を急ぐ」。

全訳

エマ : ハーイ, ジェイコブ。助けてくれると嬉しいのだけど。ボズウェル博士の研究室を探しているの。

ジェイコブ: ごめん。僕もまだ本当によくわかっていないんだ。大きなキャンパスだから。

エマ : それはそうね。でも, 本当に急いでいるの。

ジェイコブ: どうして急いでいるの? とにかくボズウェル博士には明日の授業で会えるでしょう。

エマ : うーん, でも宿題をまだ提出していないの。昨日提出することになっていたのよ。

ジェイコブ: ええと, C棟が芸術学部の建物だから, たぶんボズウェル博士の研究室もそこにあるに違いないと思うよ。

エマ : そうだといいわ。もうすぐ5時ね。ボズウェル博士は家に帰る頃かもしれないわ。

ジェイコブ: そんなことないと思うよ。ボズウェル博士は仕事中毒だって皆言っているから。

エマ : どうして作品を電子メールで送ることができないのかしら。

ジェイコブ: ボズウェル博士はコンピュータを持ってすらいなさうだよ。

エマ : 本当に。すべての教授は持っているはずだと思っていたわ。

ジェイコブ: とにかく, 急いだ方がいいよ。

エマ : そうね。ではまた明日。

今日の一言

Talk of the devil, and he will appear. 「うわさをすれば影が差す。」

‘命令文, and S V.’ (～しなさい。そうすれば, S V。) ’の形式になっている。接続詞を or に変えると, ‘命令文, or S V.’ (～しなさい。さもないと S V。) ’となる。直訳は「悪魔について話をすれば, 悪魔が現れる。」となる。人のうわさをするのは楽しいでしょうけれども, 「最近アイツ出来るようになったよね」といううわさを立てられるぐらいになれるとよいですね。

全訳

① 2050年に生きている若者に一言助言をできると仮定してみよう。一言である！それはどんな言葉だろうか。

過去数年にわたって、私は多くの友達にこの質問をしてきた。そして彼らの答えは驚くほど首尾一貫したものであった。3つの言葉が、ほぼ例外なくリストの最初に挙げられているのである。

最もあげられる頻度の高かったのは、「生きろ」である。②最初の金言としては、正しい選択である。シュヴァイツァー博士の「生命に対する畏敬の念」と、生物学者の生命過程の複雑さと不思議さの感覚を心にとめていれば、「生きろ」という言葉の大きさ、深さを理解するであろう。

注

①◇ Suppose that … : 「もし…としたら；…と仮定しよう」

○ that に続く節は内容の確実性が高い場合を除き仮定法を用いる。

②◇ a sound choice 「正しい選択」

○ ここでの sound は形容詞で、「しっかりした」の意味

◇ maxim 「金言；格言」

◇ biologist 「生物学者」

◇ sense 「感覚」

◇ complexity 「複雑さ」

◇ wonder 「驚き；驚異；驚嘆」

◇ process 「過程；経過」

◇ breadth 「広さ；寛容；雄大さ」

◇ depth 「深み；深遠」

12章 否定1

問題

【1】

A.

全訳

東洋を訪れる平均的な西洋人が、帰国した時に必ず言うのは、東洋の国は、新旧間のこれらの対照を絶えず次々と見せてくれるということである。実際には、私はこの点で東洋が西洋と少しでも異なっているかどうか疑問に思う。それぞれの新しい進歩が理解されてようやく次の進歩がなされるほど文明がゆっくりと進歩する時代は過ぎ去ってしまっている。

B.

全訳

我々はそれぞれ自分の文化の中で育ち、家庭や学校で受ける教育の結果として、あるものが「理にかなった」ものだと感じるようになる。しかし外国へ行った時に、理にかなっていると自分たちが考えていることが他の人々には必ずしもそのようには思われないうことを知って、ショックを受けることがよくある。彼らには我々と異なった見方や考え方があるのだ。自分たちのものの見方だけが唯一の見方ではないのだということを覚えておくことはきわめて大切である。もしこのことを忘れたら、我々はカルチャーショックの犠牲になるだろう。

C.

全訳

自由はその国民にとって決してありがたいものではないことがわかった。彼らは世間に放り出された子供のように無力であった。彼らは長い間、統治だけでなく防備も支配者に頼ることに慣れていたので、そのどちらにもどのように手を着ければいいのかわからなかった。

D.

全訳

さて、もし私たちが共同体の一員として効率的な役割を果たそうと思うなら、2つの対立する危険を避けなければならない。一方で、自分が何をやっているかを考えずに、あるいはこれは実際には同じことになるのだが、なぜ他人がそのような行動をするのかは少しもわからないのに、他人がするようにして大丈夫だということを当然のことと考えてしまい、行動に突き進む危険がある。他方、一人学問研究に没頭して浮世から離れてしまうという危険がある。

【2】

解答

- (1) ① c ② c ③ d
(2) c

- (3) もしあなたが手におえない危険を冒すタイプでも、自制した、慎重なタイプでもなければ

解説

(1)

- ①実際には不可能なことについての現在の仮定を述べているので、仮定法過去がふさわしい。
②「注意深い人々」を修飾する部分なので「軽率な手段をとりたがらない」とするのがふさわしい。
a be likely to do 「…しそうで」
b be pleased to do 「…して嬉しい」
c be unwilling to do 「…したがらなくて」
d be sure to do 「きっと…する」
e be forced to do 「むりやり…させられる」
③ It is worth …ing 「…する価値がある」
= It is worth while …ing [to do]

(2) ○ expose O to ～ 「Oを～にさらす」

○ others = other risks

- a 他の人々にとって危険な存在であることはめったにない。
b 進んで他の人々の危険を冒そうとすることはめったにない。
c 他の危険を冒すことはめったにない。
d 他の人々に自分の手助けをさせることはめったにない。
e 他の人々に自分の危険を見せることはめったにない。
(3) ○ the one 「前者」 = an uncontrollable high-risk taker
○ the other 「後者」 = restrained and calculating
○ neither A nor B 「AでもBでもない」

全訳

「死ぬまでは人を幸せだと言うな。」我々の多くは年をとるにつれて、人生がいかに不確かなものになりうるかということにだんだんと気づいてくる。事故は起こるし、不幸は我々だけでなく我々の親戚や友達や友達の友達をも襲う。人生のすべての危険から逃れることは誰にもできない。そしてもし、前もってすべての危険を排除しようとすれば、結局は日常におけるどんなに些細な変化にも全く対応できなくなってしまうだろう。

ある程度危険を冒すことは不可欠であり、避けて通ることはできない。我々の個性は様々であるから、考え方や危険もまた異なってくる。危険にしばしばさらされる刺激を求める者もあり、そうした人は自分の人生、仕事、そして友情について故意に危険を冒すだろう。また、慎重で、軽率な手段をとりたがらない者もいる。その両者の中間にいるのが、生じた危険には対処するが、その他の危険には自分自身をめったにさらさない人である。

自分がどの範疇に属するのかは自分だけにしかわからない。もしあなたが手におえない危険を冒すタイプではないかと思うのなら、最後にはあなただけでなく他の人に対しても危険を及ぼすこともあろう。誰か経験を積んだ親身になってくれる人に相談するのがいいかもしれない。あなたが自己を律した慎重なタイプであれば、あなたの考えは自分にとって適正

なものであるか、あるいはひょっとすると自分の視野を不必要に狭めてしまうかもしれない。もしあなたがどちらのタイプでもなければ、あなた自身いつ危険を冒し、いつ冒すべきでないかを決断できなくて混乱してしまうかもしれない。

明らかに、危険も、危険を冒すことも、人生を通じて続いていくものだ。しかし、若者がたやすく傷ついてしまう領域や、見込み違いの危険が生涯影響を及ぼしてしまう領域がある。車の運転、飲酒、喫煙、そして薬物の使用などがそうである。人の一生の進路を永遠に変えてしまうような間違いや事故があるということに気づくことは、残酷な教訓になることもある。

注

ℓ. 1 ◇ call O C 「①OをCと呼ぶ ②OをCと考える；見なす」

◇ Most of us become increasingly aware the older we get how uncertain life can be
「人生がいかに不確かなものになりうるかということに、我々の多くは年をとるにつれ気づいてくる」

○ the older we get 「年をとるにつれて」

≡ The older we get, the more aware most of us become how uncertain life can be

○ increasingly 「だんだん」

○ be aware how ～ 「いかに～かに気がつく」

ℓ. 2 ◇ not just ourselves but ～ 「我々だけではなく～も」

< not only A but (also) B

ℓ. 3 ◇ hazards 「危険」

ℓ. 4 ◇ eliminate 「～を除く；除去する」

◇ end up 「結局は…することになる」

◇ deal with ～ 「～を処理する；扱う」

ℓ. 5 ◇ the slightest change：この最上級には‘even’の意味が含まれる「もっともわずかな変化さえ」

◇ routine [ru:ti:n] 「決まってすること；日課」

ℓ. 6 ◇ inevitable 「避けられない；不可避の」

ℓ. 7 ◇ Some …：ℓ. 8 Others と対応して「…する人もいれば～する人もいる」

◇ stimulus 「刺激」 cf. stimulate v.

ℓ. 8 ◇ deliberately 「故意に」

◇ take chances with ～ 「～を運に任せる」

◇ cautious 「注意深い」

ℓ. 9 ◇ unmeasured 「軽率な」 ⇔ measured 「慎重な；控えめな」

◇ Somewhere in the middle are those who cope with the risks that turn up, but rarely expose themselves to others 「その両者の中間にいるのが、生じた危険には対処するが、その他の危険にはめったに自分自身をさらさない人である」

○ somewhere in the middle が文頭に出たために S V に倒置がおきた形。

○ S = those who ～ others

○ cope with ～ 「～をうまく処理する」

○ turn up 「生じる；起こる」

- ℓ. 11 ◇ category 「範疇」
 ◇ fall into 「分けられる；分類される」
- ℓ. 12 ◇ you could end up a danger to yourself and to others 「あなたは最後には自分自身だけではなく他人に対しても危険になることもあるだろう」
 ○ could は現在の推量「…ということもありうるだろう」《婉曲》
 ◇ It might be worth …：might は現在の推量《婉曲》
- ℓ. 13 ◇ talk O over with ～ 「Oについて～と話し合う；相談する」
 ◇ sympathetic [sɪmpəθetɪk] 「思いやりのある」
- ℓ. 14 ◇ your attitude could be right for you, or perhaps unnecessarily limit your horizons
 「あなたの態度はあなたに適切なものであるということもあるだろうし、あるいはひょっとすると自分の視野を不必要に狭くするかもしれない」
 ○ could：現在の推量
 ○ unnecessarily 「不必要に」
- ℓ. 15 ◇ find *oneself* confused by ～ 「自分が～によって混乱しているのに気づく」
 ○ find O C 「OがCであることがわかる」
 ○ confused by ～ 「～によって混乱して」
- ℓ. 16 ◇ make up *one's* mind 「決心する」
 ◇ when to take a risk and when not to (take a risk) 「いつ危険を冒し、いつ冒すべきでないか」
 ○ when to *do* 「いつ…すべきか」
- ℓ. 17 ◇ go on right through life 「人生を通じて続く」
 ○ go on 「続く」
 ○ right 「(前置詞・副詞の前で) ずっと；はるばると」
 ◇ areas は2つの関係詞節によって修飾されている。
 in which young adults ～ / (and) in which miscalculated risks ～
- ℓ. 18 ◇ miscalculated risks 「計算違いの危険」
cf. calculate 「～を計算する」
 ◇ can：可能性「…ということもありうる」
- ℓ. 19 ◇ consequence 「結果；影響」
 ◇ It can be a harsh lesson to discover that ～ 「～に気づくのは厳しい教訓になることもある」
 ○ It は to … を受ける形式主語。
 ○ harsh 「厳しい」

【3】



整理しよう

前置詞のマスター 10 “in”

解答・解説

(1) How do you say this in English?

- 「～語で」というのは in を用いる。

(2) I found a hole in this sweater and asked my mother to mend it.

別解 There was a hole in this sweater so I asked my mother to mend it.

(3) The bank robber was dressed in a police uniform.

- いわゆる ‘着用’ の in と言う。“Men in Black” という映画はあまりにも有名。

(4) I have a great friend in Justin.

- 「ジャスティンという人の中にいい友を持つ」が直訳。

Ex. We have lost a good dancer in Lily. (私達はリリーというよいダンサーを失った。)

(5) How will the Internet have changed the world in ten years?

- 「今から～後に」は in を用いる。

(6) Tomorrow we will meet each other for the first time in twenty years.

- 「～年ぶりに」は for the first time in ～ years と言えばよい。

(7) I hear that half of the cherry blossoms are in bloom.

別解 I hear that the cherry blossoms are in half-bloom.

- be in bloom 「開花して」

前置詞のマスター 11 “over / above / after”

解答・解説

(1) The girl couldn't put up with the noise, and stuck her hands over her ears.

- put up with ～ 「～に耐える」
- stick 「～をくっつける」

(2) Why not order some pizza over the phone?

- over the phone 「電話で」

(3) Let's discuss this matter over coffee.

- discuss は他動詞。
- over ～ 「～をしながら」 e.g. over dinner (夕食をとりながら)

(4) It's no use crying over spilt milk.

- It is no use …ing 「…しても無駄だ」
- over = about の意味。
- spill 「～をこぼす、溢れさせる」

(5) Mt. Fuji rises 3,776 meters above sea level.

- above sea level 「海拔」

(6) My boyfriend is above telling lies.

○ S be above ...ing 「Sが…するのを恥じる」

(7) After you. 「お先にどうぞ。」という意味の定型表現。

(8) Naomi was named after a famous actress.

○ この after は「～にちなんで」の意味。

(9) The Amazon is the second longest river in the world after the Nile.

○ after the Nile で「ナイル川に次いで」となる。

【4】

ポイント

よく部分否定だとか全部否定だとか、紋切り型の説明がなされたりするが、要は「否定詞が何を打ち消しているのか」に尽きる。ここではそれぞれの否定詞が何を否定しているのかをしっかりと考えよう。また、否定詞を用いずに否定の意味を表す表現（含意否定）にも注意しよう。

A.

解答・解説

「これは古いからよくない。」／「これは古いからよいというわけではない。」

○ not が good のみを打ち消すと考えると前者の訳になるが、not が good because it's old までを打ち消すと考えると後者になる。

B.

解答・解説

(1) (i) 「彼女は私を全く理解してくれなかった。」

○ simply は否定語の前では「全く、完全に」となり否定を強調する。

(ii) 「彼女は私を理解してくれただけではなかった。」

○ simply が否定語の後に置かれると「単に」という意味になる。

○ not simply ～ = not only ～ 「単に～だけでなく」

(2) (i) 「光るもの全てが金とは限らない。」

(ii) 「日本中のお金でもあなたに幸せを買うことは出来ない。」

○ all ～ not ～は not all ～と同じく「全てが～と限らない」という部分否定の意味になるが (i)、状況によっては「全てが～ない」という全部否定にもなる (ii)。

(3) (i) 「私はかなり疲れました。」

○ not a little = quite a little (少なからぬ、かなり) となり、not は a little を打ち消す。

(ii) 「私はちっとも疲れませんでした。」

○ not a bit (少しも～でない) となり、not は文全体を打ち消す。

(4) (i) 「彼は私の友人ではない。」 not は普通の打ち消し。

(ii) 「彼が友人だなんてとんでもない。」

○ no は「決して～などではない」という強い打ち消し。

- (5) (i) 「私はどちらも買わなかった。」 (= I bought neither.)
 ○ not ~ either は「(2つのうち) どちらも～ない」(全部否定)
 (ii) 「私は両方とも買ったわけではない。」
 ○ not ~ both は部分否定となり「両方とも～というわけではない。」という意味になる。
- (6) (i) 「私は全くわかりません。」
 ○ not ~ at all = never 「ちっとも～でない」(全部否定)
 (ii) 「私は完全に確信しているわけではない。」
 ○ not ~ quite 「完全に～というわけではない」(部分否定)

C.

解答・解説

- (1) Every 「例外のない規則はない。」
 (2) uncommon 「この種の間違いは極めてよくある。」
 (3) no means 「彼の説明は全く明確ではない。」
 ○ far from = by no means (= not at all = anything but など) 「決して～でない」
 (4) beyond 「私はその問題を解決できない」
 ○ beyond ~ 「～の範囲を超えた → ～できない」
 e.g. beyond description (言葉で説明できない), beyond doubt (疑いの余地がない),
 beyond control (制御できない), beyond remedy (矯正できない) など
 (5) fails 「彼女は必ず時間通りに来る。」
 ○ fail to do は「…できない, …しない」という意味であるが, その否定形の never fail to do は「…しないことは決してない → 必ず…する」という意味になる。

【5】

ポイント

否定表現の中でも特に頻出される表現を学習する。

解答・解説

- (1) a 「欠点を持たない者はいない。」
 ○ be far from ~ (決して～でない) と be free from ~ (～を持たない) の区別はしっかりとつけておくこと。
- (2) c 「警報機が作動したとき, どうすべきか知っていた人は, その建物内にはほとんどいなかった。」
 ○ scarcely any = hardly any = almost no であり, 数量が「ほとんどない」ことを示す。
 時間的に「ほとんど～しない」という意味は hardly ever = scarcely ever = almost never となることに注意。
 Ex. I'm hardly ever home. (私はほとんど家にいない。)
- (3) b 「携帯電話の大衆化のせいで, 今日手紙を書く人が少なくなった。」
 ○ hardly や almost は副詞のため people を直接修飾できない。(2)にあるように hardly any people ならよい。least の原級は little であり不可算名詞を修飾する。なお,

writing は動名詞であり fewer people が意味上の主語となっている（詳しくは動名詞の回で扱う）。

○ lead to ～「～につながる」

- (4) **c** 「彼女のコメントはこれまで聞いたことのないくらい最もバカげたものの1つです。」
(= I have never heard more ridiculous things than her comment.)

○ 日本語では「聞いたことのないくらい」とすることができるため **d** を選んでしまう可能性があるが、あくまでも「これまで私が聞いたことのあるものの中でも最もバカげた」という意味であることに注意する。

- (5) **a** 「あなたの論文は、考えを裏付ける具体例がほとんどないためよい評価が与えられないでしょう。」

○ very few は「ほとんどない」という準否定表現であるが、他は肯定的。

○ quite a few = not a few 「かなり多くの」

○ just a few 「わずか2, 3ある」

- (6) **d** 「彼女が家を出るか出ないかのうちに雨が降り始めた。」

○ = No sooner had she left the house than it started to rain. = As soon as she left the house, it started to rain. = The moment she left the house, it started to rain.

○ 否定の副詞が文頭に置かれたためその後が倒置されている。

- (7) **b** 「デイビッドはいつもスピードを出している。いつか重大事故を起こすだろう。」「そうならないとよいのだが。」

○ hope, think, believe, suppose, be afraid などの後に肯定の that 節が来る場合は so で代用され、否定の that 節が来る場合には not で代用される。

Ex. “Will he come?” “I think so. (= I think that he will come.)”

(彼は来るかな?) “I’m afraid not. (= I’m afraid that he will not come.)”

(来ると思う。) / (残念だが来ないと思う。)

- (8) **c** 「私があなたくらいの若さの時、将来についてあまり考えませんでした。」

○ not ～ much は部分否定で「あまり～ない」という意味になる。他に部分否定になるのは、not ～ all, not ～ always, not ～ quite, not ～ absolutely, not ～ entirely, not ～ completely などがある。

- (9) **d** 「すみません、予定があるんです。土曜日ではなく日曜日ではどうですか。」

○ instead of ～ 「～の代わりに、～ではなくて」

○ let alone ～ 「～は言うまでもなく」

○ no farther than ～ 「～くらいまでしか」

Ex. He went no farther than the door. (彼は戸口までしか行かなかった。)

- (10) **c** 「ジャックとケヴィンはどちらもオリンピックの金メダルを目指していたが、どちらも代表チームに選ばれなかった。」

○ 2人しかいないので、none ではなく neither を選ぶ。both ならば was ではなく were になるはずである。

- (11) **c** 「ツイッターにメッセージを送信して初めて、そのメッセージが本当は不適切であることが分かるのでしょう。」

- may you find と倒置になっていることから否定の副詞（節）が前置されていると考える。
また、Only as = Not until であるから、答えは c となる。

Ex. Not until I finished it did I realize my mistake.

= Only as I finished it did I realize my mistake.

= It was not until I finished it that I realized my mistake.

（終わらせて初めて間違いに気がついた。）

【6】

ポイント

日本語と英語では否定の仕方が異なる。ここでは日英の表現の違いを整序英作文の問題を通して学習していく。

解答・解説

- (1) Medical technology is too advanced for physicians not to have answers for patients.
 - too ~ to do は「～過ぎて…できない」となって既に否定表現になっているが、not が入ると to do の部分がさらに否定されて、「とても～なので…しないはずがない」というような意味になる。
Ex. She is too smart not to see the point.
（彼女は非常に賢いからその点がわからないはずはない。）
- (2) Very few words that the scholar said made a deep impression on me.
 - 主語が no とか few などの場合は訳し方に工夫が必要とされる。例えば、Nobody said so. は「そう言った者は誰もいなかった。」と訳し上げていかなければならない。この問題文も、「学者が行った言葉は～ほとんどなかった。」という訳になっていく。
- (3) Here not all the staff speak English well enough to do their job without an interpreter.
 - not all ~ 「全てが～というわけではない」
 - well enough to do はいわゆる enough to do 構文であり、形容詞や副詞の後に enough を置く。

今日の一言

You can never be too cautious. 「石橋を叩いて渡る。」

cannot ~ too …構文として知られている表現で、「どんなに～しても…しすぎることはない」という意味になる。他にも Look before you leap. (飛ぶ前によく見ろ。)や Think well before you decide. (決める前によく考えろ。)といった表現や、Better safe than sorry. (後悔するより安全を。) などという表現がある。何事においても安全、無難なの言うまでもないが、時にはリスクを冒すことも必要だし、そもそもリスクがない人生が面白いものだろうか。受験も同様で、常にワンランク上の大学を目指してみよう。

添削課題

全訳

(1) 子供は命令されて何かを行う必要がない。子供が自分で良いと認めること以外に子供にとって良いことは何もない。子供が現在理解できないような事を無理にやらせている時、あなたは本当は自分に欠けている先見の明を働かせていると考える。(2) 子供が決して必要としないであろう役に立たない道具を与えれば、子供から人間にとって最も役に立つ道具、すなわち常識を奪い取ることになってしまう。子供らしく従順でいさせようとすれば、子供は成長した時に騙されやすいばかりになってしまうだろう。「お前にはわからないだろうが、私がお前に求めている事はお前自身のためなんだよ。(3) お前がそれをしようがしまいが、私にはどうしても良い事なのだ。私の努力はみんなお前のためなんだよ。」とあなたは言っただけりいる。子供を良くしたいと思って言うこうしたすばらしい言葉はすべて、悪者や誘惑する者が子供にわなをかける道を用意していることになるのだ。

解説

- (1) ◇ The child *need* do : *need* は助動詞。

= The child *needs* to do

◇ 「;」: セミコロン

①接続詞の代用

いくつかの文が文法的には独立しているが意味の上で深い関わりがある場合にピリオドの代わりに用いられる。

②リストにした項目を区切る場合に用いられる。

本問題文では、*because* に近い意味で用いられている。

◇ *but* : *except* 「～以外に」の意味で用いられている。

Ex. He is nothing *but* a child. (彼は子供以外の何者でもない。)

◇ what he recognizes as good 「子供が良いと認めること」

○ *but* の目的になる名詞節。

cf. recognize O as C 「OをCと認識する」

- (2) ◇ *To provide him with useless tools which he may never require* 「子どもが決して必要としないであろう不必要な道具を与えれば」

○ 条件を表す *to* 不定詞。

= If you provide him with useless tools …

○ provide A with B 「AにBを供給する」 (= supply, furnish)

○ require ~ 「～を必要とする」

◇ deprive A of B 「AからBを奪う」

◇ the most useful tool for man と common sense は同格。

- (3) ◇ It does not matter to me whether you do it or not 「あなたがそれをしようとしまいと私にはどうでもいい事である」

○ It は *whether* 以下の名詞節を受ける形式主語。

○ matter *v.* 「重要である」